

中日新聞 令和7年1月1日号より転載

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祝い申し上げます。

昨年は中日書道会の創立九十周年という記念すべき年でした。会員の皆様のご協力によって、計画した記念事業がいずれも盛大かつ有意義に開催できましたことを、まずもって心から感謝申し上げます。

ここに迎えた令和七年は、次の百周年に向けて決意も新たに第一歩を踏み出す大切な年と存じます。どうか引き続きのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

早いもので、本会の名誉会長を拝命して三回目のお正月を迎えることになりました。名誉会長の職をいただいているから大きく変わったのは、何と云っても書道展に訪れる回数が格段に増えたことでした。年間通じてたくさんのご案内をいただき、時間の許す限り拝見するようにしてきました。私の職場

が愛知芸術文化センターということも好都合でした。展覧会に訪れるたびに、身近に多くの作品に触れることができる幸せと楽しさを実感することができました。そうした鑑賞の機会を重ねながら、いつしか書の奥深さというものを知ることができましたし、また会場で会員の先生方から書道の歴史や技法などさまざまなことを教示いただき、本当にいい勉強になったと心から感謝しております。

いづれ機会があれば、そのようにして学んだことを広く一般の方に知っていただき書の魅力を理解していただくため、文章にまとめてみたいとひそかに思っているのですが、そうは言ってもまだまだ学ぶことが多く、はたしていつのことになるか知れません。正月早々から叶わぬ初夢に終ってしまわなければいいが、自分に言い聞かせている次第です。

いづれにしましても、今年もできるだけ書道展には出かけたいたいと考えており、会場の皆様にお会いできることを今から楽しみにしております。私の姿を見つめることがありましたら、どうぞ気軽に声をかけて下さるようお願いいたします。

令和七年が、会員の皆様にとつて充実の年になりますよう、心からお祈りいたしております。



名誉会長 神田真秋

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和七年、乙巳(きのとみ)の新春を皆様ご健健でお迎えになられた事、心よりお慶び申し上げます。本年が皆様にとりまして、より一層輝かしい年になりますことをお祈り申し上げます。

昨年公益社団法人中部日本書道会は創立九十周年を迎え、様々なイベントを開催いたしました。若者へ向けた書道パフォーマンスを中心としたナディアパークでのイベント、愛知県美術館での古典臨書の特別展「書に臨む」私はいこう観る、役員による席上揮毫会の開催、記念リーフレットの発行など、大変多くの皆様にご来場ご好評をいただき、書を広い世代で多くの方々に楽しんで頂けたものと感じております。また会員の皆様方から絶大なご支援とご協力を賜りました事、重

ねて心から感謝申し上げます。これを契機に日本の大切な伝統文化である書道に、益々多くの方々が関心を寄せて頂ければ幸いです。

来年二〇二六年には、ユネスコの無形文化遺産登録審議の結果が得られると思われませんが、書文化を広く一般に浸透させる意識を持ち続けて活動し、中部日本から世界へ「書」を発信する事ができたら、本当に素晴らしいと思っております。

さて今年の干支「乙巳」(きのとみ)は、「乙」が発展途上の状態「巳」は植物が最大限まで成長した状態を意味しており、成長と結実の時となる可能性を示しているとの説があります。一方で、「乙」と「巳」を「陰陽五行思想」から見ると、成長しきって停滞した事柄から、爆発的に変化を起すことと観る向きもあります。

いづれにしても大切なことは、本会の目的をきちんと捉え、企画委員・事務局一同が一致協力して、真摯に前向きに進む事であると思っております。私たちが事務局一同は、今後の中部日本書道会のため懸命に努力してまいりますので、会員の皆様方には、更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。稿を閉じさせていただきます。



理事長 伊藤仙游

中日会報

公益社団法人 中部日本書道会
 編集事務局 名古屋 市
 〒450-0002 名古 区 45-19 室
 中村区 名駅二丁目 番
 桑山ビル 8階 C000
 電話 (583) 19100
 F A X (583) 1910
 http://www.cn-sho.or.jp
 info@cn-sho.or.jp
 印刷 株式会社 荒川印刷

目次

- 1 神田真秋会長「新年のご挨拶」
伊藤仙游理事長「新年のご挨拶」
安藤満水名誉副会長「年頭所感」
第五回書展の匠展・第三十三回書展
近藤浩平常任顧問
第五十六回東海テレビ文化賞ご受賞
岡野楠亭副理事長
第十一回日展会員賞ご受賞
第三十六回書道教育研修会を開催して
第二十八回書展の魅力公開講座
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6 常任顧問 中林路風先生を偲んで
会員交流ボウリング大会を終えて
第四十回読売書法展入賞者
第七十五回毎日書道展入賞者
第七十一回日展入賞・入選者
令和六年度理事会・評議員会・講演会のご案内
第七十四回中日書道展出品案内
第七十四回中日書道展作品展示会場および会期
二〇二四年チャリティ愛の募金 募金参加者ご芳名
支部だより
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 19

名誉副会長 安藤滴水先生 年頭所感 (新聞掲載)



謹んで新年のお慶びを申し上げます。昨年本会は、創立九十周年を迎え記念事業を開始しました。先生をはじめ会員の皆様のご協力、一般市民の方々の応援もいたさく無事終了しましたことを、報告申し上げます。

書道文化の発展

公益社団法人 中部日本書道会

名誉副会長 安藤 滴水

告申し上げます。記念事業の中で企画された特別展「書に臨む―私はこう観る―」と題し歴代の大家二十六名の先生方による折帖を私には容易に申し上げることができません。九十年の歴史は、浅学非才な私には容易に申し上げることができず、誠に申し訳ありません。また、半紙手本を展示させていただきました。書を学ぶ上で欠かせぬ臨書学習はかくあるべきと範を示していただき、心から感謝申し上げます。本年も書道文化の発展に本会は努めてまいります。

中日新聞 令和七年一月一日号より転載

第六十九回現代書道二十人展 ご出品

本会名誉会長代行

漢字 樽本樹邨先生

本会常任顧問

かな 近藤浩乎先生

本会副理事長

篆刻 岡野楠亭先生

※本会より三名の先生方がご選出されました。多くの皆様に足をお運び頂き、ご観覧下さいますようお願い申し上げます。

会 期 令和7年2月15日(土) ~2月23日(日)
会 場 松坂屋美術館 (松坂屋本店南館7階)

第五回書の匠展・第三十三回壽書展

第五回書の匠展・第三十三回壽書展を終えて

第二事業部長 馬場 紀行

令和六(二〇二四)年度書の匠展は十一月二十六日から十二月一日までの六日間にわたり、電気文化会館にて開催。入場者数六三七人を数えた。名誉会長神田真秋先生と名誉会長代行樽本樹邨先生の御作品を中心に名誉副会長・常任顧問・理事長・副理事長・理事・監事・顧問・参与・評議員の会員一六〇人が出品した。また壽書展は正会員・準会員・会員外の四十四人が出品し、両展ともにその内容は漢字・かな・篆刻・近代詩文・少字数を網羅し、熟達した見応えのある作品の数々であった。最高齢は九十六歳の小野田景月先生で、そのかな作品は気品のある優美さを醸しだしていた。ご来場の方々は時間をかけてお気に入りの作品を熱心に鑑賞し、堪能されたことであろう。書の匠展は本展で五回目を迎え定着した感があり、壽書展は生涯学習として長年にわたって書に親しんでおられる方々には絶好の発表の機会であったと推測する。また、最終日には「第二十八回書の魅力公開講座」が開催され、講座に足を運ばれた受講者の方々も休憩時間に展覧会を鑑賞されていた。



匠・壽展案内



壽書展風景



販う書の匠展

令和6年度 公益社団法人中部日本書道会創立90周年記念

第5回 書の匠展・第33回 壽書展 出品者

会期：令和6年11月26日(火)～12月1日(日)

会場：電気文化会館 東・西ギャラリー

【書の匠展】

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 後藤 啓太 | 川崎 尚麗 | 川合 玄鳳 | 神谷 光園 | 上小倉 積山 | 加藤 矢舟 | 尾寄 紫光 | 大木 青嵐 | 大池 青岑 | 岩田 澗流 | 伊藤 小游 | 磯谷 凄聴 | 天野 白雲 | 横井 宏軒 | 松下 英風 | 加藤 裕 | 岡野 楠亭 | 伊藤 仙游 | 鬼頭 翔雲 | 安藤 滴水 | 樽本 樹邨 | 神田 真秋 | | | | | | | |
| 早川 泰山 | 故中林 露風 | 近藤 浩平 | 後藤 汀鷺 | 黒田 玄夏 | 加藤 子華 | 梶山 夏舟 | 伊藤 昌石 | 安藤 秀川 | 村上 史麗 | 田中 石雲 | 遠藤 栄久 | 山本 雅月 | 山中 桂山 | 村瀬 俊彦 | 水野 峯翠 | 古川 昇史 | 廣澤 凌舟 | 広井 秀琳 | 原田 凍谷 | 馬場 紀行 | 波切 童州 | 中林 景 | 柘 英峰 | 武内 峰敏 | 高木 玄齊 | 鈴木 立齋 | 佐野 翠峰 | |
| 秋松 秀玲 | 青山 高陽 | | 本間 翠眉 | 鈴木 瑞象 | 杉坂 育子 | 小嶋 和晃 | 磯和 鴻東 | | 横山 夕葉 | 山際 雲峰 | 山内 江鶴 | 水谷 海越 | 松浦 華苑 | 丹羽 常見 | 中野 玉英 | 富田 栄楽 | 津田 秋月 | 武山 翠屋 | 近藤 素光 | 工藤 俊朴 | 木戸 竹葉 | 片山 清洲 | 落合 深淵 | 井野 吟紅 | 伊藤 曉嶺 | | 松永 清石 | |
| 國島 英華 | 川本 赫汀 | 河原崎 坡青 | 河田 聖翠 | 神谷 采邑 | 加藤 碧涛 | 加藤 翠林 | 籠瀬 提花 | 小野田 景月 | 尾関 楊花 | 奥村 碧洋 | 岡地 紅華 | 岡田 愛子 | 大塚 窓月 | 太田 佳香 | 大河戸 柳光 | 遠藤 紫聖 | 内本 久園 | 入谷 霞流 | 今田 紅溪 | 伊藤 美泉 | 伊藤 静春 | 伊藤 翠芳 | 泉 好子 | 石原 清至 | 石井 瑞鶴 | 猪飼 閑雲 | 安藤 清香 | 安達 柏亭 |
| 新美 珠光 | 永谷 恵子 | 中川 貴舟 | 中尾 芝菜 | 鴫澤 澄江 | 都築 心扇 | 谷 鴻風 | 田島 不染 | 竹内 梅泉 | 高田 香坡 | 高島 濤翠 | 世古口 大虚 | 鈴木 容華 | 鈴木 松厓 | 杉山 瓊川 | 杉本 京扇 | 杉浦 琇鈴 | 白木 紫香 | 志村 舟泉 | 清水 澄園 | 志水 玉華 | 佐藤 水香 | 佐々木 博山 | 齋藤 芝香 | 近藤 晴翠 | 小島 岐香 | 香村 孤竹 | 熊崎 北咏 | 久野 天山 |
| | | | 渡辺 月潭 | 米田 厓陽 | 吉澤 劉石 | 山本 史鳳 | 山田 海石 | 山川 孝子 | 山川 昌泉 | 三輪 三麗 | 宮田 清風 | 光澤 閑石 | 牧 仙岳 | 古田 秀紅 | 古川 花溪 | 藤原 郁代 | 福島 有何 | 深津 洋子 | 深田 芳香 | 平野 公慎 | 坂野 竹童 | 阪野 小波 | 林 春翠 | 則武 穹 | 野村 揚月 | 野村 曉峰 | 野中 曾川 | 丹羽 裕 |

【壽書展】

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 前野 秋豊 | 半田 幸瑩 | 馬場 紅雲 | 野村 繁子 | 夏目 美沙 | 永田 正毅 | 長澤 美峰 | 中垣 幸聲 | 寺尾 洌 | 杉本 錦楊 | 正徳 李泉 | 清水 水僊 | 澁谷 弘峯 | 柴田 恵子 | 佐藤 芳泉 | 佐藤 桃華 | 佐々木 映雪 | 榊原 観峰 | 小早川 恵祥 | 後藤 雙華 | 北村 玉鳳 | 加藤 芳枝 | 加藤 北辰 | 飯田 紫泉 | 縣 欣司 | 青山 碧雲 | 小林 秋月 |
| | | | | | | | | | 柚原 博 | 矢田 游舟 | 飛田 泰仙 | 野村 透 | 竹山 秋峰 | 志村 紫峰 | 佐々木 陽道 | 佐伯 つた子 | 神谷 秀峰 | 大野 大典 | 遠藤 鶴川 | 岩田 旭峰 | | 水谷 和舟 | 長谷 瑞泉 | 田辺 泰子 | 鈴木 志保 | 近藤 向華 |

(順不同)



表彰風景



授賞理由

日本独自の文化である
かな書道を深くきわめる
とともに後進の指導育成
に尽力し、かな書の振興
と書道教育に於いての芸
術文化発展に貢献した。

授賞理由

祝

常任顧問 近藤浩乎 先生

第五十六回 東海テレビ文化賞

ご受賞



ご受賞記念品



表彰状

祝

副理事長 岡野楠亭 先生

第十一回 日展 会員賞

ご受賞

第十一回日展・日展会員賞を受賞して

岡野楠亭



「このたび第十一回日展に於まして図らずも「日展会員賞」を受賞いたしましたこと身に余る光栄に存じます。偏に故中島藍川先生はじめ斯界先達の先生方並びに中日書道会会員の皆様のご支援ご温情の賜物と衷心より御礼申し上げます。今回受賞した作は「書」の中でも篆刻と言うなかなか理解されにくい分野であります。このような賞をいただけただけな事は篆刻界にとりまして非常に大きな喜びであると同時にその責任の重大さも痛感しております。

さて、今作は殷周金文を素材とし、その金文特有の神秘的なフォルムの字形に魅了され取り組みました。一本一本の線の存在感と空間に放射する磁力的効果を確認しつつ、造形性の追求を試み、また刀法においては青銅器に鑄造された温かみのある線と立体感の表現を念頭に奏刀を試みたつもりですが、まだまだ理想のイメージには程遠く慚愧に堪えません。今後はこの受賞を励みに更なる精進努力を重ねて行きたいと思っております。中日書道会の諸先生には引き続き倍旧のご支援ご批正を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



(公社)中部日本書道会創立九十周年記念
第三十六回 書道教育研修会を開催して

第二教育部長 川崎尚麗

第三十六回書道教育研修会は、十月二十七日(日)、国際センタービル五階に於いて松下英風副理事長のご挨拶から始まりました。次に加藤裕副理事長の蘭亭序を用いた臨書についての書道講話では、受講生一同真剣に聞き入っていました。小休止

の後、上小倉積山理事による「妖怪人間ベム」の言葉を引用しての北魏書の成り立ちを、時代や地域や意識の違い、隷書の線の名残にまで話を広げられ実技を含め楽しい研修でした。午後は、馬場紀行理事より、仮名書を上手に書く為に字形や行の流れ・響き等の基本・要点をお話頂いた後、受講者の中に入って添削や揮毫に時間を費やされました。「お二人の先生の丁寧な実技指導が良かった」とのお声も頂き、来年も有意義な研修会になるよう準備して参ります。



加藤副理事長 書道講話



かな講座 馬場紀行先生



漢字講座 上小倉積山先生

十二月一日(日)、名古屋電気文化会館五階イベントホールに於いて「第二十八回公開講座」を開催いたしました。一〇四名(会員七十二名、会員外三十二名)の参加のも行われました。

横井宏軒副理事長兼事務局長のご挨拶に引き続き、第一講座は、理事の岩田潤流先生が「他分野から学ぶ」書道との共通性を探る」と題して先生と縁の有る声楽家、彫刻家、柔道家の言葉をご紹介いただき、基本練習の大切さや自己表現を磨く努力が必要なのはジャンルを問わないこととお話しくございました。

第二講座は、理事の後藤啓太先生が「魅力ある詩文書作品をつくるコツ」と題して作品作りでは、目標をたてないで詩文から受ける無限のイメージと表現の可能性を追求することの大切さを豊富な資料をもとに説明されました。

最後になりました



講座風景



第二講座 後藤啓太先生



第一講座 岩田潤流先生

(公社)中部日本書道会創立九十周年記念
第二十八回 書の魅力公開講座

研究部長 廣澤凌舟

たが、ご多用中にもかかわらず講師をお努めいただきました両先生並びに、受講いただきました皆様方には、心より御礼申し上げます。また、準備やお手伝いに関わりました研究部員の方々にも感謝申し上げます。

(文責 三代雄幸)

常任顧問 中林路風先生を偲んで

工藤俊朴



令和六年八月四日の妻（唄子、中林子鶴先生の長女）の死去から約三ヶ月、十一月七日は悲しい日となりました。

「微笑ましい」「笑顔で私達と接する姿は、誰もが「優しい温和な先生」のイメージですが、「書」に対する厳しい姿勢は、病の中でも変わる事なく、流石に「一流の書家」であったと思います。「書は線」「線は点の集合」「線が空間を造る」等が心に残る言葉です。奇抜な造形を嫌い、それぞれの文字が持つ基本の形を大切に考へて、「俗っぽくなるな！」

中国上海呉昌碩紀念館、江蘇省美術館での二度の個展は、本場の書の求導者としての先生の精神的支柱であったかと思えます。日中友好の橋渡しの為、副理事長として、当時の稲垣松圃理事長のもとで尽力された功績を私達は忘れてはなりません。

平成二年 愛知県芸術文化選奨文化賞

〃八年 中国万里長城碑揮毫

〃十三年 古稀記念中林路風展

（上海呉昌碩紀念館）

〃十八年 江蘇省美術館主催による

中林路風展

〃二十九年 日展特別会員

令和三年 卒寿記念展（電気文化会館）

書道東門社代表

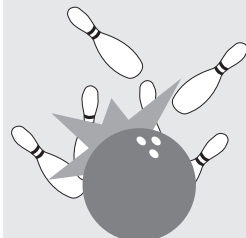


第78回謙慎書道会展出品作

会員交流

ボウリング大会を終えて

厚生部長 伊藤昌園



十二月八日、デイグワールド名古屋（中川区）にて、令和六年度中部日本書道会会員交流ボウリング大会が開催されました、今回から場所を移して開催される為、準備の手順等が違い、戸惑いましたが、何よりも、例年より参加者が減ってしまわないか、心配でしたが、それも杞憂に終わり、五十三名もの皆様にご参加いただき、盛大に執り行うことが出来ました。理事長

を賜り、ゲーム終了後からご参加いただいた、役員・企画委員の先生方も合わせ、六十二名で終始和やかに懇談会がとり行われました。最後になりますが、ご参加いただきました、役員・企画委員の先生方。賞品を提供いただいた協賛会員の皆様。そして、新会場となりましたデイグワールド名古屋様、心よりお礼申し上げます。

伊藤仙游先生のご挨拶、副理事長 松下英風先生とお二人での始球式を合図に、ゲームスタート。今年は、伊藤仙游理事長も、ご挨拶でおっしゃられておりましたが、若手の参加が目立ち、大変盛り上がりつつあったように思いました。その後、広くて明るいパーティールームにて、理事長 伊藤仙游先生より成績上位者へのトロフィー・記念品の授与が行われ、応援にお越しいただいた、常任顧問 後藤汀鶯先生から乾杯のご発声



伊藤理事長始球式



松下副理事長始球式



男・女優勝～3位、ハイゲーム賞

男性	1位 林 柏堂	女性	1位 岡田愛子
	2位 岩崎墨舟		2位 物部浩子
	3位 鈴木淑久		3位 村瀬九葉
	ハイゲーム賞 大橋溪煙		ハイゲーム賞 村瀬九葉

第四十回
読売書法展入賞者

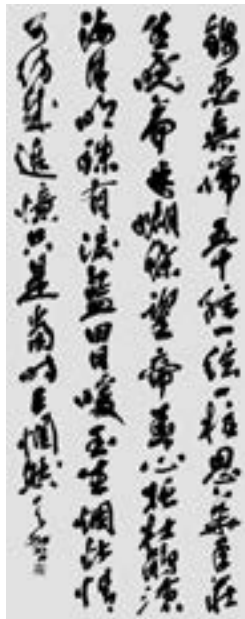
〔本会会員関係分〕
〔中部展入賞者名簿より〕



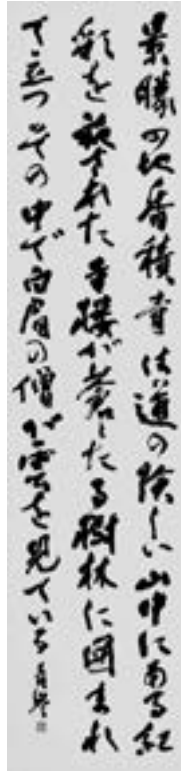
読売準大賞 (かな) 山本 雅月



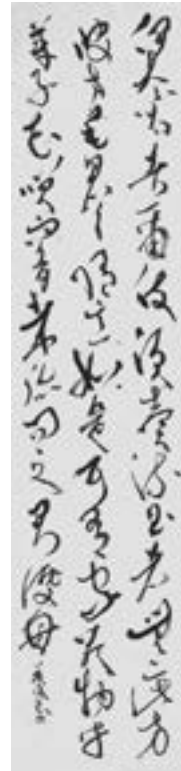
読売準大賞 (漢字) 今田 昌宏



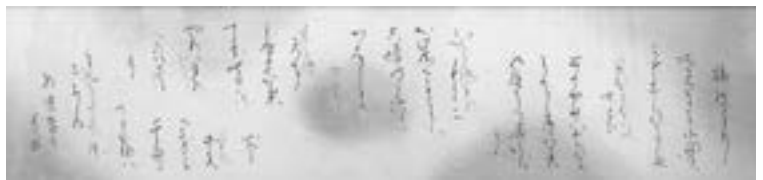
読売新聞社賞 (漢字) 長屋 天虹



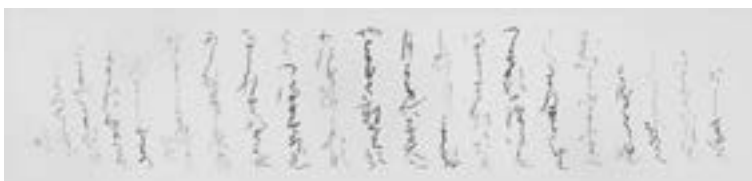
読売準大賞 (調和体) 大池 青岑



読売準大賞 (漢字) 松下 英風



読売新聞社賞 (かな) 堀田 花



読売新聞社賞 (かな) 山口 律舟

読売準大賞

〔漢字〕

今田 昌宏

松下 英風

〔かな〕

山本 雅月

〔調和体〕

大池 青岑

読売新聞社賞

〔漢字〕

長屋 天虹

〔かな〕

堀田 花

読売俊英賞

〔漢字〕

石川 明歩

伊藤 昌園

佐藤 水香

白井 景星

竹内 清泉

中川 瑞玉

三代 雄峯

森 芳彩

〔かな〕

加藤 玉華

河村 黄園

本田 煌雲

水野 佑華

〔篆刻〕

水谷 三兆

〔調和体〕

倉田 朝華

読売奨励賞

〔漢字〕

家田 翠徑

稲垣 輝彩

今井 夏虹

大場 敏充

岡田 愛子

草野 慧泉

竹田 景汀

長尾 秀麗

長谷川 緑光

〔かな〕

広井 秀琳

〔篆刻〕

佐藤 悦子

〔調和体〕

吉原 愛璃

特選

〔漢字〕

飯田 瑤華

犬塚 結理

大野 彩

佐藤 恵順

- | | | |
|-------|-------|-------|
| 杉山 京華 | 近藤 星崖 | 下野 宏江 |
| 内藤 蒼月 | 佐藤 彩柳 | 杉山 裕梨 |
| 中島 千里 | 澁谷 峻山 | 田村 裕香 |
| 松本 紅華 | 鈴木 清秋 | 橋本 富子 |
| 吉田 聖汀 | 関谷 蒼玄 | 原田由美子 |
| 和田 玉繡 | 千田 光麗 | 深谷紀代子 |
| 高木 美杏 | 高木 美杏 | 増井 希 |
| 高森 良鴛 | 竹内 由美 | 丸山 仁美 |
| 後藤 珠美 | 中嶋 彩友 | 三浦 玉泉 |
| 吉田 裕子 | 中嶋 彩友 | 箕浦 和子 |
| 鈴木 玉晶 | 野々村宣子 | 森 美泉 |
| 山口 鈴代 | 吉村真由美 | 山口 鈴代 |
| 羽田野江楓 | 廣野 陽風 | 伊藤 紅彩 |
| 水野 百花 | 水野 百花 | 鹿野美智代 |
| 伊藤 美扇 | 森 千花 | 平 富燿 |
| 山本 祥仙 | 渡邊 香蘭 | 永田 正毅 |
| 山崎 曲全 | 大石 窓雪 | 山崎 曲全 |
| 安藤 範香 | 岡田 惠鶴 | 浅井 祥舟 |
| 足立 麗華 | 加藤 芳司 | 大池 那由 |
| 伊藤 紀子 | 木村 明峰 | 川島 豊翠 |
| 内田 洋子 | 楠森 玄峰 | 柴田 桃花 |
| 太田 晶基 | 倉知 葉舟 | 西脇 和子 |
| 大野 紀舟 | 後藤 彩園 | 川中永津子 |
| 川中永津子 | 小西 美紀 | 栗名 孝枝 |
| 栗名 孝枝 | 近藤 香月 | 近藤 由果 |

第七十五回 毎日書道展入賞者

〔本会会員関係分〕
〔東海展入賞者名簿より〕



会員賞 (近代詩文書) 浅井 明奈



会員賞 (漢字) 神谷 光園

- | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 神谷 光園 | 神谷 光園 | 大西 和枝 | 花田 佳子 | 采女 紅楓 | 片山 沙弥 |
| 浅井 明奈 | 浅井 明奈 | 成田 長男 | 平井 華泉 | 大沢 真弓 | 河口 航毅 |
| 宮本 清霞 | 宮本 清霞 | 村田 籬香 | 村上 薫仍 | 大谷 和子 | 白崎 力 |
| 村田 籬香 | 村田 籬香 | 若山 思鵬 | 横井 吟虹 | 河合 美玲 | |
| 若山 思鵬 | 若山 思鵬 | | 中島祐三子 | 北野 春艸 | |
| | | | | 合木 湖雪 | |

- | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 秀作賞 | 佳作賞 | 佳作賞 | 佳作賞 | 佳作賞 | 佳作賞 |
| 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 |
| 村上 影月 | 村上 影月 | 兼子 圭葉 | 坪沼 明美 | 西 恵香 | 小島 湖山 |
| 〔漢字部Ⅱ類〕 | 〔漢字部Ⅱ類〕 | 〔漢字部Ⅱ類〕 | 〔漢字部Ⅱ類〕 | 〔漢字部Ⅱ類〕 | 〔漢字部Ⅱ類〕 |
| 石川 佳翠 | 石川 佳翠 | 井上 香苑 | 酒井 香陽 | 萩原由希子 | 羽根 寿子 |
| 林 泰伯 | 林 泰伯 | 三輪 三麗 | 村田 華雪 | 福川 翠 | 三輪 蘇生 |
| 三輪 三麗 | 三輪 三麗 | 太田 浄泉 | 太田 浄泉 | 松原 瑞穂 | 平井 祐里 |
| 村田 華雪 | 村田 華雪 | 梶田 汀雨 | 梶田 汀雨 | 森下喜久子 | |
| 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 |
| 佐藤 緑風 | 佐藤 緑風 | 吉川 桃香 | 吉川 桃香 | 梶田 夕貴 | |
| 花田 佳子 | 花田 佳子 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | 〔近代詩文書部〕 | |
| 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | 〔漢字部Ⅰ類〕 | |
| 小島 湖山 | 小島 湖山 | 古家野弥生 | 古家野弥生 | 西 恵香 | |

U23奨励賞

〔漢字部Ⅱ類〕

梶田 夕貴

〔近代詩文書部〕

片山 沙弥

河口 航毅

白崎 力

第十一回 日展 入賞・入選者

〈会員賞〉

日展会員 岡野 楠 亭

〈入選者〉

愛知県

板倉 恵子 若杉 美香 吉田 裕子 水野 佑華 小倉 壽子 中野 玉英 柘田 英峰 和田 美智子 鈴木 裕子 磯貝 弘子 馬場 紀行 鈴木 香鵬 安田 雪篁 堀部 保子 甲谷 富美子 赤堀 正風 福井 芳子 豊嶋 青岑 伊藤 紀子 後藤 啓太 家田 馨子 三橋 紅月

香山 久遠 藤原 郁代 高橋 花柊 村瀬 俊彦 倉内 翠羽 松下 英風 小坂 克子 田中 修文 片岡 秋華 近藤 芳玉 今枝 節峰 酒井 青桐 今田 昌宏 磯谷 凄聰 山際 雲峰 高桑 嚴風 梶山 盛涛 水野 峯翠 加藤 月苑 吉村 佳代子 服部 美枝子 畑部 裕子 清水 美智子 衣川 彰人

今井 桃丘 掘野 梅肇 日比野 妃扇 吉澤 有岐子 早川 小修 伊藤 藤小 岐阜県 北川 爽風 太田 美楓 浅井 祥舟 加藤 紫雲 塚田 俊可 宮田 洋美 天野 白雲 森 則子 渡辺 悠記子 高木 紅舟 上村 小夜子 稲吉 小夜子 永井 友理 細川 柳舫 近藤 青洮 片山 清洲 大池 青岑 山崎 曲全

鈴木 史鳳 関谷 蒼玄 本田 煌雲 小島 岐香 古田 祥扇

三重県

荒木 敬子 山本 雅月 津田 壽美 佐久美 泉涯 松井 秀峰 水谷 三兆 堀田 巳旺子

永平 巳旺子 東京都 長谷川 鸞 卿

兵庫県 南條 佳園

〔〇印は初入選〕 ※掲載のお名前は、日展 ホームページでの発表 名簿順となります。

団体署名実施協力中



各展覧会共、記載につきましては極力注意をしておりますが、漏れがございましたら本部までご連絡下さい。次号に掲載させていただきます。

令和六年度

理事会・評議員会・講演会のご案内

〈予定〉

令和七年二月二日(日)

会場 名古屋東急ホテル

第四回理事会

三階「ゴシックの間」 時間 十三時三十分より

第一回評議員会(報告会)

三階「ルネッサンスの間」 時間 十五時三十分より

講演会

三階「ルネッサンスの間」 時間 十六時三十分より

講師 中京大学教授 風間 孝氏

演題 『性の多様性とは』

『互いの性のあり方を認め合う』

祝賀懇談会

三階「ヴェルサイユの間」 時間 十八時 より

第七十四回 中日書道展 出品案内

一、会場・会期

▼愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー 8F
A S S I 室

○審査顧問・常任顧問・理事・監事・顧問・参与以上の役員は

第一期・第二期を通して二週間展示

○一科審・二科審・依頼の作品は第一期に展示

○無鑑査・一科は第二期に展示

第一期 令和七年六月 十八日(水) ～ 六月二十二日(日)

第二期 令和七年六月 二十五日(水) ～ 六月二十九日(日)

▼名古屋市民ギャラリー 栄 7・8 F
○二科作品 令和七年六月 十七日(火) ～ 六月二十二日(日)

●匠の書展 作家による揮毫会 六月二十一日(土) 午後二時三十分より開催

●愛知県美術館ギャラリー 第七十五回記念 中日書きぞめ展 上位作品(一〇四点字定)を展示

※御長寿作品(米寿)の展示について 米寿の作品は愛知県美術館ギャラリー 8 F に展示します。

※障害者アーツ・アールプロジェクト「書」を第二期にて展示します(予定)。

一、出品部門 第一部 漢字 第二部 かな 第三部 近代詩文 第四部 少字数 第五部 篆刻・刻字

一、出品資格 十五歳以上(平成二十二年四月一日生まれ以前)の者とする。(但し十五歳から二十五歳までの者(平成十一年四月二日生まれから平成二十二年四月一日生まれまで)は証明書(免許証、学生証、保険証等のコピー)を提出する。)

一、出品点数 出品は一人一点とし、二部門にわたる出品は認めない。

一、出品寸法 各資格の出品規程に記載する作品寸法とする。

一、出品料 各資格の出品規程に記載の出品料とする。

一、年会費 正会員の年会費は、本年度出品、不出品にかかわらず納入するものとする。

一、資格喪失 一科・展覧会役員で二年連続不出品の場合はその資格を失うものとする。

(止むを得ない事情で出品できない時は、その旨本部へ書類を提出すること)

一、授賞式 令和七年六月二十二日(日) 名古屋東急ホテル 午後三時半より(予定)

一、祝賀会 令和七年六月二十二日(日) 名古屋東急ホテル 午後六時より(予定)

一、入場料 三〇〇円(小・中・高校生は無料)、資格証により入場できる。

一、書類搬入等 書類搬入はすべて取扱店がいたしますので、出品者は事前に取扱店へ出品票、出品料、協賛費などをご提出下さい。

締切りは四月十四日(月)までとさせていただきます。

中日書道展出品の全作品は、整理の都合上取扱店に委託する事とし、個人による書類搬入、作品搬入、搬出は認めませんのでご注意ください。

※正会員(展覧会役員及び一科会員)の年会費も、取扱店へ委託し、書類搬入時に納入していただきます。

一、その他 不明な点は二月末にお届けします事務分掌でのご確認ください。

※授賞式・祝賀会の会場が昨年度と違います。

第七十四回 中日書道展作品展示会場および会期

名古屋市民 ギャラリー栄7・8F		愛知芸術文化センター 愛知県美術館ギャラリー8F (A~I室)		
		第二期	第一期	第一期・第二期
二科	※2	一無鑑査科 ※3	依二科一科 嘱審査審査 員員	監事・顧問・参与 以上の作品 ※2 審査顧問・常任顧問・理事・
6/17 (火)				
18 (水)				
19 (木)				
20 (金)				
21 (土)				
22 (日)				
23 (月)				
24 (火)				
25 (水)				
26 (木)				
27 (金)				
28 (土)				
29 (日)				
10:00~18:00 ※ 最終日は16:30 まで		10:00~18:00 ※ 22日(日)は16:00 まで 最終日は16:00 まで		

※1 匠の書展作家による揮毫会―六月二十二日(土)午後一時三十分より開催します。

※2 御長寿作品(米寿)の展示について―愛知県美術館ギャラリー8Fに展示。(第一期・第二期の二週間展示)

※3 障害者アーツ・アールブリュット「書」は第二期に展示します(予定)。

6/17 (火)
18 (水)
19 (木)
20 (金)
21 (土)
22 (日)
23 (月)
24 (火)
25 (水)
26 (木)
27 (金)
28 (土)
29 (日)

会員の皆様の温かいお心に感謝いたします。

2024年 チャリティー愛の募金

中日新聞社会事業団に140万円寄託
東海テレビ福祉文化事業団に100万円寄託
各支部より各県の中日新聞にて80万円寄託



中部日本書道会が
義援金10万円寄託
中部日本書道会(名古屋
市)は12日、年末助け合い
運動の義援金として、14
0万円を中日新聞社会事業
団に寄託した。
愛知、岐阜、三重県の会
員約3400人から寄せら
れた善意。伊藤仙遊理事長
「写真左から2人目」らが
「会員の皆さまからの温か
い気持ちを届けに来た。
恵まれない人たちのために
活用してほしい」と、社会
事業団の林寛子理事長に目
録を手渡した。

中日新聞 2024.12.13(金)

募金参加者ご芳名

神田 真秋 安藤 滴水 岡野 楠亭
鬼頭 翔雲 加藤 裕
樽本 樹邨 松下 英風
伊藤 仙遊 横井 宏軒

天野 白雲	磯谷 凌聰	伊藤 小游	岩田 潤流	大池 青岑	大木 青嵐	尾寄 紫光	加藤 矢舟	上小倉積山	神谷 光園	川合 玄鳳	川崎 尚麗	川崎 尚麗	後藤 啓太	佐野 翠峰	鈴木 立齋	高木 玄齊	武内 峰敏	柘 英峰	中林 景	波切 童州	馬場 紀行	原田 凍谷	広井 秀琳	廣澤 凌舟	古川 昇史	水野 峯翠	村瀬 俊彦	
山中 桂山	山本 雅月	遠藤 栄久	田中 石雲	村上 史麗	安藤 秀川	伊藤 昌石	伊藤 昌石	梶山 夏舟	加藤 子華	黒田 玄夏	後藤 汀鶯	後藤 汀鶯	中林 露風	早川 泰山	伊藤 曉嶺	井野 吟紅	上田 賦草	落合 深淵	片山 清洲	片山 清洲	木戸 竹葉	木俣 紫香	工藤 俊朴	倉重 拜石	近藤 素光	佐藤 慶雲	高橋 秀箭	
武山 翠屋	田中 白雲	津田 秋月	坪井 景照	富田 榮榮	中野 玉英	中村 秀峰	丹羽 常見	長谷部青徑	堀場 凶南	松浦 華苑	森 清暉	山内 江鶴	山際 雲峰	横山 夕葉	片岡 秋華	杉江 秀城	杉坂 育子	鈴木 瑞象	鈴木 瑞象	本間 翠眉	相川 千涯	相崎 紫憬	青木 榮俊	青木 芳翠	青木 芳翠	青木 芳翠	青木 芳翠	
青山 華塘	青山 高陽	赤堀 正風	秋松 秀玲	浅井 径桜	浅井 紫泉	浅井 紫峰	浅井 祥舟	浅井 明奈	朝井 美玲	浅野 芳柳	安達 柏亭	足立 麗華	阿部 舟花	阿部 牧香	阿部 牧香	天野 稍華	荒川 清香	荒川 清香	荒川 清香	荒木 友梅	荒木 友梅	安藤 佳舟	安藤 清香	安藤 静歩	安藤 蘇道	飯田 瑤華	飯田 泰郷	家田 馨子
家田 翠徑	猪飼 閑雲	生田 浪華	池上 創	伊佐治祥雲	石井 小湖	石井 瑞鶴	石上 桃李	石川 瑞祥	石川 瑞峰	石川 桃露	石川 明歩	石黒 直子	石黒 柏葉	石澤 玉翠	石田 茜華	石田 雙碩	石田 三喜	石田 三喜	石塚美根子	石塚美根子	石原 清至	石原 清至	泉 好子	磯貝 弘子	市川 嶺華	市橋 蒼流	市橋 文親	市橋 文親
伊藤 和代	伊藤 恭子	伊藤 玉冰	伊藤 吟雪	伊藤 谿石	伊藤 玄圃	伊藤 紅玉	伊藤 紅樹	伊藤 虹川	伊藤 春瑤	伊藤 春瑤	伊藤 昌園	伊藤 昌園	伊藤 昌郷	伊藤 新川	伊藤 真葉	伊藤 翠香	伊藤 翠香	伊藤 静雅	伊藤 静雅	伊藤 静香	伊藤 静香	伊藤 草華	伊藤 艸亭	伊藤 美泉	伊藤 美泉	伊藤 文恵	伊藤 芳華	伊藤 芳香
伊奈 美峰	稲垣 輝彩	稲垣 京子	稲垣 紅春	稲垣 竹徑	犬飼 春灯	犬塚 玉陽	井野 華水	井上 香苑	井上 紫水	井深 春扇	今井 夏虹	今井 恭子	今井 恭子	今井 芝香	今井 春陽	今井 桃丘	今井 桃丘	今井 春陽	今村 寿鴻	今村 寿鴻	今村 耕心	入谷 霞流	岩城みつ代	岩田 臘月	岩田 展穂	岩田 波鮮	植田 秀穂	上田 青香

上野 明美	塩谷 秀蘭	大谷 素子	岡野 敬子	尾之内柳雪	鎌倉 彩風	久徳 蓬香	額額 卓葉	近藤 芳玉	篠田 祥濤	杉田 節子	平 富耀
上前 総子	大上 懂花	大塚 窓月	岡本 桃香	小野田景月	神谷 采邑	小宇佐久美	近藤由紀枝	篠田 瑞芳	杉本 京扇	高井 香園	
鶴飼 冠山	大川 澄泉	大野 樹抱	小川 琴風	小野田晃志	神谷 松扇	甲谷富美子	齋藤 芝香	柴田 厚実	杉本 扇鈴	高井 東里	
宇佐美匠香	大河戸柳光	大野 彩	小川 澄光	小野田美晴	神谷 緑泉	河村 黄園	斎藤 矧川	柴田 桃花	杉山 瓊川	高木 愛子	
牛田 美泉	大崎 水愁	大野 蘭香	奥田 薫苑	鏡 千裕	工藤 子鷗	香村 孤竹	斉藤 千秋	柴間 秀瑤	鈴木 雲峰	高木 紅舟	
内川 昌子	大沢 真弓	大橋 幽徑	奥田 蘭庭	加古 松泉	龜山 雪峰	小坂 克子	酒井 光華	澁谷 鳴風	鈴木 花園	高木 光風	
内田 翠徑	大鹿 珠翠	大畑 麦川	奥村 三葉	加古 仔春	荊田 遵松	國島 英華	酒井 麗月	島田 楓林	鈴木 京楓	高桑 嚴風	
内本 久園	大嶋由美子	大森 香鶴	奥村 順子	籠瀬 提花	久野 天山	小嶋 岐香	酒井 珠月	志水 玉華	鈴木 香菽	高島 濤翠	
内山 紫泉	太田 佳香	小笠原青華	奥村 碧洋	梶山 盛涛	久納 竹景	小嶋 真海	榊原 和香	志水 憬堂	鈴木 香鵬	高田 濤翠	
梅田 楊華	太田 紫翠	岡田 愛子	長田 裕華	片岡 蘭芳	河合 醉光	小嶋 瑞月	櫻木 吟對	清水 春蘭	鈴木 紅瑤	高根 桂祥	
梅村 彩香	太田 淨泉	岡田 恵香	長村 子鴻	片桐千賀子	川合 朋枝	小島 瑞香	櫻木 吟對	清水 澄園	鈴木 史鳳	高橋 花柊	
江川 翠苑	太田 青華	緒方 津苑	小澤 佳路	加地 孤握	川口 由美	小嶋 雪舟	佐々木雅風	清水 澄園	鈴木 静香	高橋 華堂	
江口 大濤	太田 由香	岡田 麗峰	尾関 楊花	加藤 永樵	川崎 清吟	小嶋 泰子	佐々木博山	志村 舟泉	鈴木 石城	高橋 寿香	
榎本 照乃	太田 龍峰	岡地 紅華	落合 玉泉	加藤 杏華	河田 聖翠	小谷 春苑	佐竹 得道	志村 峯遠	鈴木 凍山	高橋 栖雲	
遠藤 紫聖	大竹 玄友	岡戸 保子	小野 蹊泉	加藤 月苑	川出 泉麗	倉田 朝華	佐藤 悦子	下村 佳風	鈴木美都子	高橋 竹香	
				加藤 光月	河原崎坡青	倉知 葉舟	佐藤 恵園	下村 繫舟	鈴木 容華	高橋 白羊	
				加藤 秀慧	倉橋 華仙	後藤 蘇月	佐藤 晨麗	下村 汀柳	鈴木 蘭峰	高松 彩月	
				加藤 松雲	河村 喜汀	倉橋 高堂	佐藤 水香	東海林路子	須田 静波	高松 秀翠	
				加藤 夕堤	川本 赫汀	倉橋 松谷	佐藤 清華	白井 景星	清木美智子	滝本 白峰	
				加藤 艸舟	川本 大幽	倉橋 珠路	佐藤 恵風	白木 紫香	関戸 海越	田口 勢望	
				加藤 博子	神田 閨秀	栗本 松谷	小林 祥鶴	白木 紫香	関根 玉翠	竹内 紫燕	
				加藤 文子	神田 醉月	厨 柳青	小林 雅子	佐藤 緑風	関谷 蒼玄	竹内 清泉	
				加藤 碧涛	木澤 麗川	榊林 春翠	小松 翠篁	真田 九龍	新海 峰永	竹内 清泉	
				加藤 芳恵	木島 静月	黒川 春翠	近藤 翠嶺	佐山 美楓	菅沼 貴香	竹内 友康	
				金澤 秀鴛	北川 爽風	黒田 春水	近藤 星崖	沢井 鴻風	杉浦 薫水	竹内 南里	
				可児 長望	衣川 彰人	黒野 芝香	近藤 晴翠	三田 蕉葉	杉浦 琇鈴	竹内 梅泉	
				金丸 翠石	木村 霞月	黒柳 景光	近藤 青洩	三間 恵翠	杉浦 仁美	武内 幽汀	
					木村 明峰	小池 玲翠	近藤 延子	式守 白菽	杉江 花城	竹内 由美	

（一宮支部）

令和六年十二月三日(火)

中日新聞一宮総局へ
村上史麗支部長と吉田
桃花、牧 仙岳両支部次
長が訪問し、中日新聞社
会事業団の「年末助け合
い運動」にと一宮総局長
市川 真氏に十万円を寄
託した。





令和六年十二月十五日(日) 半田支部
 展懇親会の席上で、(株)中日新聞社半田
 支局長加藤様にチャリティー愛の募金
 十万円を寄託しました。
 (半田支部長 杉江花城)

〔半田支部〕

竹田 景汀 田中 春華 玉樹 栄香
 武田 晶庭 田中 祥雲 千葉 晨翠
 田島 不染 田中 尚秀 中条 彰山
 田代 青穂 田中 照葉 塚田 俊可
 巽 麗都 田中 千翠 塚本 桃里
 楯 青萌 田中 美香 築山みなみ
 楯 芳琴 谷 鴻風 津田 松鶴
 帯刀 溪石 谷 泉石 土川 青翠
 田中 幸江 谷口 琇苑 土屋 香風
 田中 修文 種田 瑞鳳 土屋 春聲

都築 心扇 中川 翔鶴 新山 翠香 萩野 琴苑 林田 虎峰 深谷 恵庭 増田 春暉 水谷 天風 森 翠葉
 堤 光星 中川 瑞玉 西尾 雅子 萩原 祐子 原 霞扇 深谷 紅蘭 増田 蘭苑 水野 清花 森 清葉
 坪井 英哲 中川 星光 西垣 美茜 橋詰 桃邨 原賀 瑞芳 福井 笙燿 松井香代子 溝口 子静 森 政子
 坪井 白汀 中川 麗香 西垣 梨雪 羽柴 苔谷 原田 圭竹 福岡 林泉 松井 秀麗 溝口 純華 森 隆城
 勅使河原恵翠 長崎 成秀 西村 松花 橋本 成良 原田 清尚 福島 有何 松岡 瓊玉 溝口 渺然 森 久美
 寺尾 桑林 長島 佳伯 西脇 和子 長谷川華香 坂 九塔 福田 徑揚 松崎 朱實 光澤 閑石 守永 藍麗
 寺岡 春蘭 中島 祥園 西脇 聖園 長谷川眞山 坂 九塔 福田 徑揚 松崎 朱實 光澤 閑石 守永 藍麗
 寺島 春恵 中島祐三子 仁田脇京華 長谷川翠流 阪野 小波 福西 史呂 松佐古溪水 皆川 嗣恵 森本 夏溪
 寺西 智鳩 永瀬 紅蘭 丹羽 春蘭 秦 雪暎 坂野 渚月 藤井 和彦 松澤 昂永 三野島凌雲 矢上 扇麗
 寺本 陽春 永瀬 珠香 丹羽 清郷 藤田 寒樹 松田 聖心 宮 希蓉 矢島 潮香
 藤堂 弘風 永田 美幸 丹羽 茜麗 服部 華泉 日江井芝香 藤村 真徳 松下 三雪 宮崎 弘園 安田 翠嵐
 鴫澤 澄江 中田 和香 丹羽 裕 服部 春逕 日高 彩景 藤原 清泉 松田 鶴鵬 宮崎 富山 安田 雪篁
 徳倉 禾風 永谷 恵子 丹羽 藍水 服部 瑞花 日比野寿翠 古川 花溪 松田 秋芳 宮田 清風 矢田部琴舟
 戸崎 翠虹 中西 笙月 根津 郷巴 服部美枝子 日比野妃扇 古川 侃司 松田 樹幹 宮田 洋美 山内 香霖
 戸田 青楓 中西 草城 野口紀代子 花井 清水 平井三千代 古田 秀紅 松田 穂輝 三輪 凌慶 山内 窓楓
 戸松 香苑 中野世津香 野口 志園 羽根 寿子 平岩 美風 古田 祥扇 松野下華清 向山 青泉 山川 昌泉
 戸松 紅翠 永平巳旺子 野崎 華泉 馬場 青邨 平賀 秀園 古山 玉扇 松本 紅雨 村井 康山 山川 孝子
 富田 蘭月 中村 翠雲 野田 佳楊 浜野 春瑛 堀田 花 松元 彩華 村瀬 季舟 山岸 邦山
 外山 悠汀 中村 清園 野田 虹園 早川 和子 平野 公慎 堀田 穂 丸山 聖峰 村瀬 竹風 山口 蕙世
 豊嶋 青岑 中村 青煽 野田 江泉 早川 緑園 平野 芳碩 堀 梅肇 三浦 景波 村田 華泉 山口 如泉
 鳥居 竹泉 中村 曾南 野田はる美 林 華泉 平原 皓月 堀 美洲 三上 啓鳳 村田 光柊 山口 竹汀
 鳥居 柳城 中村 竹童 野中 曾川 林 紫香 平松 圭鳳 堀田 孝子 見神 恵峰 村田 籬香 山口 裕子
 内藤 春翠 長屋 天虹 野々村宜子 林 春翠 平松 心華 堀部 保子 美希 昌風 望月 希彩 山口 幸子
 永井 青楓 中山 芳泉 野村 暁峰 林 天翔 平光 朱扇 本田 煌雲 三代 雄峯 元橋 逸舟 山口 律舟
 永井 友理 成田 尚子 野村 清涼 林 柏堂 深井 尚子 前田千登世 水田 珪華 物部 浩子 山崎 曲全
 中尾 芝菜 新美 秋鳳 野村 揚月 林 由美 深田 芳香 牧 仙岳 水田 美泉 森 環翠 山崎 紅影
 中川 貴舟 新美 珠光 則武 穹 林 玲玉 深津 洋子 牧野 瑞葉 水谷 玉汀 森 絹泉 山田 海石

山田 杏華 山脇 三枝 吉田 清城
 山田 紅照 弼 舟紅 吉田 聖汀
 山田 秀謙 横井 静嘉 吉田 桃花
 山田 蹋雲 吉兼 理樹 吉田 美影
 山田 正代 吉川 清軒 吉原 愛璃
 山田 有華 吉川 桃華 吉村佳代子
 山田 流芳 吉澤 劉石 吉村 美雪
 山本 香川 吉田 香雪 吉村 峰燕
 山本 史鳳 吉田 江楓 若杉 美香

〔西三河支部〕

義援金10万円寄託
中部日本書道会支部

中部日本書道会(名古屋
市)西三河支部は3日、年
末助け合い運動の義援金と
して、10万円を中日新聞社
会事業団に寄託した。加藤
矢舟支部長、磯谷凌穂支部
次長、築山みなみ支部次長
が中日新聞岡崎支局に届け
た。写真。



中日新聞 2024.12.4(水)

天野 博子	阿部 光泉	阿部 和枝	東 瑶琴	浅野 揺草	浅野 清澄	浅川 都鸞	朝岡 子皓	浅井 柚衣	浅井たみ子	朝居 華緒	縣 欣司	青山 佳白	青山 和生	青木 和馨	青木 来夢	青木 美洲	青木 碩山	青木 碩山	愛澤 珠翠	相崎 実核	渡邊 悠記子	渡邊 香蘭	渡邊 月潭	和田 玉繡	鷺野 紫篁	鷺津 岱嶺
磯貝 碧雲	泉 彩音	石村 晃子	石原 宗久	石田 李舟	石黒 真泉	石川 麗香	石川 玲香	石川 裕里加	石川 恵美	石川 鳴洲	石川 加翠	石川 栄利子	井桁 翠咲	池田 絹子	池阪 圭月	飯塚 花香	安藤 美恵	安藤 範香	安藤 昭亭	安藤 秀苑	安藤 早百合	安藤 香波	荒木 桃花	荒川 白扇	新井ひろ子	新井 翠眉
稲垣 芳辰	稲垣 喜由	伊藤 蘭香	伊藤 蘭香	伊藤 蘭徑	伊藤 弥生	伊藤 紀子	伊藤 清川	伊藤 青慶	伊藤 祥子	伊藤 春翠	伊藤 秀英	伊藤 紫鳳	伊藤 鴻仁	伊藤 紅彩	伊藤 恵子	伊東 華水	伊藤 鳳珠	伊藤 英美	伊藤 文野	一柳 純子	市川 兼正	板倉 虹華	板倉 香淵	磯部 玉蘭	五十川朱翠	磯貝みえ子
鶴飼 水影	上田 清楓	上田 馨星	上 暁 杏苑	岩本 麗泉	岩場 恵子	岩田 香翠	岩田 永慎	岩瀬 房子	岩瀬 祥苑	岩崎 翠風	井本 千游	今村 禎邨	今橋 由利	今西 道子	伊吹 紅鳳	井上三保子	井上 恒雄	犬塚 八重	犬飼 清真	稲吉小夜子	稲吉 邦子	稲村 洋春	稲葉 翠泉	稲田 清婉	稲垣流美子	稲垣 舞夏
大嶽 旭華	太田 美楓	太田 遥	太田 翠香	太田 紫紅	大田さやか	大島 海舟	大澤 浩子	大河内淳風	大久保春鼎	大石 窓雪	江端 穂香	榎本 翠峰	榎田 瓊翠	江崎婦沙子	江口 幽岳	梅村 香園	宇野 央子	采女 紅楓	宇都野美代子	内山 雅舟	打田るり子	内田 晃州	内田 臯月	白井 桃園	牛田 光星	宇佐美待月
奥村恵美子	奥田 桃里	荻野 玉堂	小川 裕子	小川 順子	小川 真由美	小川 順子	小川 香風	小川 董花	岡本 裕鼎	岡本 芝苑	岡田 容子	岡田 洋美	岡崎 真理	岡 幸秀	大矢 大月	大村 瑞苑	大宮 春兆	大平 貴子	大林 霞風	大野 光葉	大野 琴舟	大野 紀舟	大西 影慕	大塚 莒苑	大津 翠影	大谷 蕙苑

〔東三河支部〕



年未助け合い義援金
中日新聞
社会事業団

会員らの善意寄託
中部日本書道会支部

中部日本書道会東三河支
部の山川孝子支部長と写真
左から2人目と深井尚子
支部次長と同3人目、皆川
嗣恵支部次長と同4人目
が6日、中日新聞豊橋総局
を訪問。中日新聞社会事業
団の「年未助け合い運動」
に、会員らから寄せられた
10万円を寄託した。

中日新聞 2024.12.7(土)

尾崎 涼舟 尾関 賀妙 尾関 明美 鬼塚 佳香
 小倉 壽子 小澤 翠嵐 落合八代栄
 奥山八重子 納村 翠玉 小田 哲廣

加古 寅起	加藤 笙香	金倉あゆみ	神田 真珠	久野 哲仙	小島 大立	笹本 菜月	清水 水僊	鈴木 香葉
笠松 紫芳	加藤 昭蘭	神村 瑤春	神戸 春谷	久保田香穂	児玉 峰月	笹山万喜子	清水 由美	鈴木 夏代
梶川美穂子	加藤 碩望	神谷 芳翠	神戸 笙詩	久保山碧楓	後藤 智明	佐藤 惠順	志村 玲香	鈴木 誠人
春日井静月	加藤 千冬	河合 恵萌	貴島 小舟	熊崎 香苑	後藤 蘭徑	佐藤 幸泉	庄司 梨陽	鈴木 明蓬
糟谷 永子	加藤 大然	河合 秀苑	木島 美翔	久米 玲扇	後藤 柳月	佐藤 紅蘭	庄野 照香	鈴木 悠里
粕谷 芳翠	加藤 孝子	川合 碩山	北堀 華暎	栗木 美楓	小西 美紀	佐藤 彩柳	白井 孝心	鈴木 藍光
片岡 桂苑	加藤 照代	河合 澄香	北村 玉鳳	栗山 幽香	小早川恵祥	佐藤すみ子	白井 美翠	関村 吟香
片岡 木蘭	加藤 桃徑	川北 博子	木野瀬陽光	栗名 孝枝	小林 明美	佐藤 青葩	白川 眞弓	瀬邊 風馬
片岡 蘭泉	加藤登紀子	川口 花園	木村 香葉	小石 順	小林 洋子	佐藤 敬顕	陣内 華苑	千田 光麗
香月 久遠	加藤 眉翠	河出 長女	木村 和象	小出 和香	小松 月泉	佐藤 桃華	菅原 佳月	曾根 精華
加藤 華容	加藤 浩子	河村 一雄	久世たか子	甲谷 千樹	小牟禮優美英	佐藤 典子	杉浦 悦子	祖父江佳扇
加藤 喜峰	加藤 北辰	河村 紫夙	杳名 香花	鴻巣 玉兔	子安 杏庭	佐藤 幽水	杉浦 幸子	祖父江幽華
加藤 珪風	加藤由美子	河村 典子	杳名 典子	古賀野五耀	小山 峯雲	佐橋 爽翠	杉浦 直照	高木由紀江
加藤 紫雲	加藤 芳枝	川村有紀奈	九野 恭葩	小島 華扇	近藤 明彦	佐橋 美風	杉浦 純子	高瀬 江舟
加藤 春溪	加藤 芳司	川本 青柊	久野 生麗	小島 静珠	近藤 勝子	澤里起与古	杉浦 芳純	高津 朱美

〔濃飛支部〕
 年末助け合い義援金
 中日新聞 社会事業団 岐阜支部

中部日本書道会濃飛支部 10万円。会員から寄せられた義援金を支部長の堀梅肇さん、写真⑤、同次長の中垣幸聲さん、同⑥が届けた。

中日新聞 2024.12.11(水) 恵那通信局記事より

近藤 香月	三野美恵子	杉田 樹石	高槻 和子	谷 順子	土森 星蒼	寺嶋 祥香
近藤 碧霄	塩野谷厚志	杉村 虹苑	高橋千代子	谷川 花影	都筑 聖園	寺田 雅風
近藤 芳玉	志賀 禾州	杉本 和代	高橋 美華	谷口貴代子	角田登美子	土井 秀栖
近藤 嘉江	志津野穂夏	杉本 錦楊	高橋 麗水	谷田 青崖	坪井 揖溪	遠山 翔雅
近藤 玲翠	篠崎 芳園	杉山 京華	滝本 柳烟	谷 順子	坪井 揖溪	遠山 正幸
榊原 観峰	篠原 久祥	杉山千鶴子	竹内 深風	谷 順子	坪井 揖溪	遠山 正幸
榊原 俊碩	柴田恵美子	杉山 瑤華	竹内 敏夫	谷川 花影	角田登美子	土井 秀栖
坂口 丹華	柴田 恵子	杉山 洋子	武田 芳雨	谷田 青崖	坪井 揖溪	遠山 翔雅
阪田 華香	柴田真由美	杉山 和子	田澤 扇華	谷田 青崖	坪井 揖溪	遠山 翔雅
佐久間汀翠	澁谷 弘峯	鈴木 和代	田中 桜花	千葉 弘子	坪井 揖溪	遠山 正幸
桜井 花沁	島戸 香蘭	鈴木 京子	田中 彩鵬	辻 聖漣	鶴口 夏菜	遠山 柳恵
佐々木映雪	清水 省子	鈴木 玉晶	棚橋 紅蘭	土本 珠星	寺島 明子	梅野 春美

〔北勢支部〕
 令和六年十一月二十九日(金)午後、中日新聞四日市支局へ支部長荒木友梅と副支部長竹内清泉が伺い、令和六年度チャリティ愛の募金として十万円を小池豊徳支局長に寄託しました。



〔中南勢支部〕
令和六年十二月十一日(水)午後、
中日新聞三重総局へ支部長谷鴻風
と副支部長堀田花が伺い年末助け
合い運動「チャリティー愛の募金」
として会員から寄せられた十万円
を寺岡秀樹総局長に寄託しました。

- 徳倉 江舟 長尾 秀麗 永田 正毅
- 徳倉 有鄰 長尾 珠泉 中西 伸江
- 富田 武夫 中川 春光 中西 真尋
- 富田 朝煙 中川 翠山 長野 榮信
- 富永 飛燕 中川 美翠 中野 滋
- 豊田 霞汀 中川 玲波 中野 紫泉
- 鳥居 柳清 長澤 美峰 中野 聲石
- 永井 静景 中島 千里 中野 和陽
- 長江 穂華 永田 彩乃 中橋美恵子

- 長畑 清楓 野村 真美 半田 幸瑩 藤本 佳扇 松田眞理子 村上 庸子
- 中村 彩香 野村 繁子 萬代 京 藤原 紫光 松永 紫豊 村瀬 鶴翠
- 中村智恵子 野呂 竹泰 坂野 紅楓 舟橋 風苑 松野 悦子 村瀬 貴水
- 夏目 京山 長谷川春汀 長谷川瑞鳳 半谷 恵風 古橋 紀風 松原 信子 村瀬 紫苑
- 夏目 美沙 長谷川瑞鳳 日置 康苑 星野 仙燦 松本 春楊 村田 恵紅
- 成田 長男 長谷川緑光 等 綾雪 星野 律花 真野 桃華 村田美保子
- 鳴川 翠月 服部 和子 平井 祐里 細川 柳舫 三浦 巖芳 村田 麗水
- 成瀬 伸芳 服部 修江 平川 彩舟 穂積 清華 三浦 節子 村知 清蘭
- 新津 美泉 花井明日美 平澤 雲香 洞 英翠 右高 衆山 森 則子
- 西川 樹顛 花井 麦雲 平田 瞳 堀 清溪 御崎 勲城 森 富華
- 西川 春風 馬場 景子 平野 煌藍 本田 吉華 三沢 桃紅 森岡 英子
- 西川 允子 馬場 紅雲 平野 遊古 本多 蘭香 水越 鈴雪 森川 峻翠
- 西村 翠羽 林 華香 平林津賀子 本間賀世枝 水谷サト子 森下 美影
- 西山 孝子 林 溪舟 平松 明子 前川 敦子 水谷 静香 森島 光華
- 蛭川 紫石 林 皓月 平松 和子 前野 秋豊 水谷 鳳月 安田 春麗
- 丹羽 岳代 林 尚志 平松千代子 牧野 秋陽 水谷 峯文 八谷 白仙 山田 和子 横井 霞光 米津 美華
- 丹羽 紅翠 林 翠竹 廣瀬 芳雲 牧野 瑞風 水野 百花 梁川 美舟 山田 光芳 横井 佳汀 若松 翠泉
- 丹羽 白桜 林 節香 廣野 陽風 増井 希 溝口 紗世 柳澤 孝子 山田 西寧 横江 昌峰 若山 芝春
- 丹羽 博美 林 泰伯 深谷 朝美 増井 希 溝口 春華 柳瀬 緑風 山田 真如 横田 杏歌 鷺野 春翠
- 丹羽 碧洋 林 柏亭 深谷祐加里 町田 清芳 南谷 流泉 山内 昂波 山田 隆久 吉川 珠翠 鷺野 嘉子
- 野口 佳泉 林 律翠 林 律翠 深谷 清峰 宮尾 清峰 山内 清華 山田 弘子 吉川 桃香 和田ひまわり
- 野澤恵美子 原 香風 福原 秋冷 福應 一蒼 松居 光子 宮澤 煌泉 山川 桂花 山中 信子 吉川 抱雲 和田美智子
- 野尻 紀子 原 彩霞 福本 寿鴻 福本 寿鴻 松浦 華雪 宮田 昭子 山川 節子 山本 双剣 吉田 鏡華 渡邊 香扇
- 野田 翠香 原 賀代 福山 恵山 松浦 華峰 宮地八千代 山口 晶子 山本 種子 吉田 蘭生 渡辺 湖夕
- 野田千津子 原田 玉樹 藤井 秀堂 藤崎理恵子 松崎理恵子 山口 含烟 山本 博信 吉成 香映 渡辺 祥令
- 野々川翠扇 原田由美子 藤木 秀華 藤村 瓊香 三輪 彩光 山本 瑶華 吉村真由美
- 信安 青嶺 坂 霞汀 藤村 瓊香 松田 典子 村上 泉醉 余語 春美

〔岐阜支部〕
年末助け合い義援金
中日新聞
社会事業団
岐阜支部

〔岐阜支社〕
▼中日新聞日本書道会岐阜支部
10万円。会員か
らの義援金を
支部長の今田
紅溪さん、写
真さんと同次
長の鈴木蘭峰
さん、同僚
が届けた

中日新聞 2024.12.6(金)

(十二月二十六日本部確認分)

第75回記念 中日書きぞめ展

会 期 令和 7 年 3 月 15 日 (土) ~ 3 月 16 日 (日)

会 場 ナディアパーク 2 階 アトリウム 名古屋市中区栄三丁目 18-1

授賞式 令和 7 年 3 月 16 日 (日) 午後 2 時 ナディアパーク 3 階 デザインホール

書道教室推薦看板申請制度のご案内

本会では、書の勉強を希望する人々のために、また書道の優れた指導者を、広く一般の人々に紹介することを目的として書道教室等の推薦制度を実施いたしております。

この制度は、書道教室を経営する会員の先生方を側面よりバックアップするもので、教室または指導者に対して推薦証と推薦看板をひと組として、希望される会員に有料で交付するものであります。(左記参照)

交付にあたっては、この制度の内容から、誰にでも無条件というわけにはまいりません。

資格者は本会の正会員です。

ただし、準会員の方は、中日展に出品されている方及び本会が主催する書道教育研修会を受講された方に限ります。

記

○書道教室推薦証等交付申請書 一通
(申請書は本部へご請求下さい)

○推薦証(別記)

○推薦看板(写真)

○アクリル製、巾15cm×長さ60cm、指導者名を記入いたします。

○申込資格

本会正会員及び

選考会で認められた準会員
○推薦手数料 二七、〇〇〇円

(承認後ご連絡)

絡いたしませ

ので振替用紙

にてお振込み

下さい。

担当 教育部

公益社団法人

中部日本書道会推薦教室

第●●●号

指導者●●●

推薦証

右の者は書道並びに書写教育の優れた指導者として認められるのでここに推薦する

年 月 日
公益社団法人中部日本書道会
第 号

中部日本書道会書道教室 推薦証等交付申請書

令和 年 月 日

公益社団法人 中部日本書道会理事長 殿

申請者 住所 氏名 (姓) (電話番号 - -)

下記の通り書道教室等の推薦を受けたいので、手数料を添えて申請します。

教室名	
教室住所	
ふりがな	
指導者名 (申請者名)	中日書道展 格 賞
備考	

(注) 指導者の書歴は裏面のとおりで

受付年月日 令和 年 月 日
交付年月日 令和 年 月 日
交付番号

※ご質問等は本部事務局迄連絡下さい。

新入会員 紹介

●半田支部
櫻本 貴志

訂正とお詫び

会報二二三号
十一頁
誤：種村山堂
正：種村山童

九十周年記念誌
あとづけ
誤：竹内峰敏
正：武内峰敏

誤：伊藤昌郷
正：伊藤昌園

お詫びして
訂正いたします。

計 報

心より哀悼の意を表しご報告申し上げます。(厚生部)

○9月21日 評議員 中村峰泉氏 享年75

○9月 評議員 太田紫玉氏 享年81

○11月7日 常任顧問 中林露風氏 享年93

○11月11日 評議員 倉知葉舟氏 享年88

○11月11日 評議員 森本源一郎様 享年88

○12月10日 評議員 五井花径氏 享年91

○12月17日 評議員 近藤樹祥氏 享年71

事後報告
○8月2日 評議員 桃井祥谷氏 享年89

社中展・個展のご案内掲載について

本会会員による書展のご案内を会報及びHPにて掲載させていただきます。会報掲載は、五月中旬、展覧会案内原稿、HP掲載には、展覧会案内ハガキをお送りください。尚、展覧会原稿及びハガキは、必ず封書にてお送りください。次号掲載は、五月中旬、十月初旬開催の展覧会となります。お申し込みは、三月二十日までに本部へお願いします。(編集部)

あ と が き

明けましておめでとうございます。令和七年、中日会報一月号をお届け致します。本号では、常任顧問近藤浩平先生の「東海テレビ文化賞」、岡野楠亭副理事長の「日展会員賞」のお慶びをご報告させて頂きました。先生方の書に対する弛まぬご努力と情熱が、実を結ばれた結果と存じます。また、日展・読売展・毎日展でも、多くの先生方のご入賞・入選者が発表され、合わせましてお祝いを申し上げます。本年は役員改選もあり、百周年を迎える第一歩の年にもなります。会員皆様の益々のご協力を宜しくお願ひいたします。永年本会の為にお力添えを賜りました、常任顧問中林露風先生のご逝去に哀悼の意を表し感謝申し上げます。(編集部)

ホームページアドレス
http://www.cn-sho.or.jp

メールアドレス
info@cn-sho.or.jp

支部だより(令和六年度上半期)

一宮支部

●第一回部長会

日時 四月十四日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
出席者 部長会十六名

●第二回部長会

日時 六月二日(日)
会場 スポーツ文化センター
出席者 部長会十五名

●支部報発行(第五十三号)

七月一日

●第五十一回七夕まつり学生書道展

出品数 二、七九九点



七夕まつり学生書道展

●第三十回選抜作品展

(役員・指導者の小作品展)

出品数 九十七点

会期 七月十三日(土)、十四日(日)
会場 一宮スポーツ文化センター
来場者数 二、三〇〇名

●第三回部長会

日時 八月十八日(日)
会場 スポーツ文化センター
出席者 部長会十六名

上半期の行事には、支部全面協力体制で参加を致しました。多くの方に展覧会を見に来ていただける様に招待状を作り、子供たちから学校の先生方や友達に出してもらいました。うちわ書きイベントも大盛況で、用意していたうちわがなくなり、急遽色紙で対応させていただきました、うれしい悲鳴となりました。



選抜作品展



うちわ書きイベント

半田支部

●第九回公開書道研修会

日時 七月二十一日
会場 半田市 福祉文化会館

講師として理事・第一企画部長兼IT部長 佐野翠峰先生をお招きし、「詩文書を書く」と題してご指導をいただきました。二十三名の受講者の中には、今回が初めて詩文書にトライアルの方もあり、一心不乱に筆を運ばれていました。佐野先生のご指導は、人柄が溢れた、優しく、そして楽しいもので、受講者の皆さんはとも有意義な時間を過ごされたと思います。



公開書道研修会

【中日新聞掲載、CAC(ケーブルテレビ)放映】

●第一回半田支部学生展

会期 八月十七日、十八日
会場 半田市福祉文化会館

出品点数一、三七二点、会期二日間での来場者は一、一六二人と、盛況で活気のある会となりました。来場者は「学生展」ということもあり、二世帯、三世帯帯同による観覧が多く、また、孫の作品を見たいと、祖父母だけのご来場もありました。二日目の授賞式には、半田市長のほかご来賓の皆様から、入賞者に賞状と記念品が授与されました。将来を担う子供たちの励みや活躍の場となれたら幸いです。今後もこの役割を果たすよう続けていきたいと思えます。【中日新聞掲載、CAC放映】
なお、例年九月に開催していた支部展



学生展授賞式



学生展会場

は、今年度は会場の都合により、十二月となります。

西三河支部

●支部研究会

日時 三月十七日(日)
会場 安城市民会館
参加者 六十四名
日頃から、各自研鑽している作品を、支部当番審査員及び役員の先生方のご指導を仰ぎ、有意義な作品研究会となりました。



支部研究会

また、展示会場には作品に加え、審査風景や貼付作業、陳列作業の様子がわかる写真を掲示したことで、參觀者から学生書道展への一層のご理解をいただくことができたかと思えます。

- 三年 山川 四年 大空
- 五年 天気 六年 自然
- 中一 地球 中二 資源
- 中三 環境 高校 風力発電



学生書道展 審査風景



学生書道展作品の貼付作業



学生書道展 会場風景

●第五十七回学生書道展

会期 七月五日(金)～七日(日)
会場 岡崎市美術館
出品点数 三、七六六
入場者数 一、〇五〇名
学生書道展は、毎年テーマを決めて開催しており、本年度は「自然環境」としました。事務局員の高齢化と減少にともない各作業の負担等を鑑み、展示作品は特別賞以上と高校生としました。

(課題) 幼 いけ

一年 にじ 二年 かぜ

東三河支部

●東三河支部展

会期 七月九日(火)～七月十四日(日)
会場 豊橋市美術館 第三展示室
対象 支部所属会員

出品点数 九十七点(賛助出品含む)
本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、横井宏軒副理事長兼事務局長、五名の先生方の玉作を賛助出品していただき、第四十七回東三河支部展を開催いたしました。諸先生方、多くのお客様にご来場いただき、温かい励ましやご指導を賜り、盛会のうちを終えることができました。



東三河支部展

●講演会

日時 七月十三日(土) 午後三時半
会場 豊橋商工会議所 四〇六会議室
講師 新城市指定無形文化財保持者 (公社)日本工芸会監事 五代 名倉鳳山氏
演題 「硯の文化」

本講演では、いつも使用している硯が殷の時代より前からの歴史があること、書道の



講演会

文化を現代の日本人の所作と供に見直して、純粹な「和」の文化を再考しつつ、新しい和硯の様式を作り上げたいとの思いをお話くださいました。

●会員集会

七月十三日(土)、本部から伊藤仙游理事長、岡野楠亭副理事長のご臨席を賜り、令和六年度東三河支部会員集会を開催いたしました。令和五年度事業報告ならびに令和六年度事業計画、令和五年度収支決算報告、及び令和六年度運営委員会の紹介など会員集会を無事に終えることができました。

その後第七十三回中日書道展受賞者が紹介され、会員一同盛大な拍手でお祝いいたしました。



会員集会

濃飛支部

第三十八回濃飛支部展開催

会場 恵那文化センター展示室
七月二十六日 搬入展示
七月二十八日 搬出片付
賛助出品 本部役員
伊藤仙游理事長
岡野楠亭副理事長
加藤 裕副理事長
松下英風副理事長
横井宏軒副理事長



本部役員ご高覧



支部展作品

漢詩や童謡歌詞など25作品
恵那 中部日本書道会 濃飛支部展

中日新聞
令和6年7月27日号より転載

中部日本書道会濃飛支部の作品展(中日新聞社後援)が26日、恵那市長島町

の恵那文化センターで始まった。支部会員と書道会本部役員の計16人が5点を展示した。28日まで。

6月に名古屋市中区で開かれた公募展「中日書道展」の出品作が中心。漢詩や童謡の歌詞、三好達治の詩、篆刻など、丹念に表現された作品が並ぶ。

支部長で東那市明智町の堀梅肇さんは「漢字、かな、少字数といったジャンルがあり、文字の形も違うのを見てほしい。書の世界が広がれば」と話した。(石川オチ)

表現力豊かな書道作品が並ぶ会場＝恵那市長島町で

北勢支部

第三十七回北勢支部展

会期 七月十九日(金)～二十一日(日)
会場 四日市市文化会館 第三展示室
出品総数 八十六点(うち本部作品五五点)
入場者数 約三〇〇人
会員外にも声かけをして十九名の方にご出品いただきました。二月に行なった講習会の作品(『わんぱう』を使った書表現)を入口近くに展示しました。これは自分の好きな色を使って文字や余白部分を彩色した作品で、大きさも半紙サイズに限定したため、統一感があつてしかもカラフルで、とってもオシャレな作品に仕上がりました。書のモノトーンの世界を脱却しカラーを使った斬新なものを、入場者の眼を引き、制作方法など観客とのコミュニケーションが生まれることも良かったと思います。

支部集会

日時 七月二十一日(日)
会場 四日市市文化会館 第三ホール
出席者数 四十一名
本部より松下英風副理事長、横井宏軒副理事長兼事務局長のご臨席を賜わり、令和



北勢支部展 会場風景

五年度事業報告、収支決算報告、会員数報告、令和六年度事業計画、同予算案が報告されました。

講演会

講師 ジュエリーアーティスト 森 千明先生
演題 日本の伝統技術 蜜蝋鑄造の形
出席者数 六十六名



講師 森 千明先生

は、働き蜂が巣を作るために分泌した蠟のことで、これに松ヤニ等を混ぜて溶かし、少し冷めたら手にとって細く引くことで美しい引き目模様ができます。それを元に型を作り鑄造して、最終的に宝石も加えて美しいジュエリーができます。この技術は国内での制作者は少なく、イギリスやハンガリーなど海外で熱心な心棒者がいるようです。先生は書について、書作品そのものよりもむしろ、揮毫しているシーンを見せた方がいいのではないかと、書いているシーンはなかなか見られないのが、今は動画にして発信することが簡単に行ける時代であり、また書は海外でもファンが一定数はいるのでその方面をもっと活用してもいいのではないかとお話を展開されて締めくくられました。



講演会会場

懇親会

会場 美濃照寿庵
加藤 裕副理事長 御臨席
横井宏軒副理事長 御臨席

支部集会

会場 恵那文化センター二階集会室
加藤 裕副理事長 御臨席
横井宏軒副理事長 御臨席

中 南 勢 支 部

中南勢支部におきましては十月十六日午後より、十月二十日迄、三重県立美術館県民ギャラリーにおいて、第三十七回中南勢支部会員展を開催します。期間中十九日には集会、講演会も開催する予定です。研修会は十一月十七日、バスにて観峰館「近江ゆかりの書画」を見学し、その後大津市石山寺、紫式部展を観賞する予定となっております。

さて、前述しましたように中南勢支部は行事が下半期に集中しておりますので、各行事の報告ができません。今回は伊勢の国が生んだ書家、松田雪柯を紹介したいと思います。

雪柯は文政六年（一八一三）伊勢山田一志久保町に生まれ、家は代々伊勢神宮の祠官でありました。幼少の頃から父に書画を習い、後に貫名松翁の門人となって書画の鑑



松田雪柯翁 略歴板書



松田雪柯翁 旧跡碑

識、書法、水墨画などを学んだとあります。明治十一年（一八七八）日下部鳴鶴、巖谷一六の招きで祠官を辞して上京し、巖谷の家三年間仮住まいをしたようです。隣家は鳴鶴の家でした。明治十三年（一八八〇）、清の楊守敬が漢魏六朝の碑帖を携え来日したとき巖谷、日下部、松田の三人は楊守敬に師事し、書法を研究し、六朝書道を提唱しました。雪柯を会友として、毎週月曜日「述筆法堂清談会」という研究会を主宰し、書法の研究、鑑識の指導を目的とした会を創設したのでした。

翌年病にて帰郷しましたが、五十八歳の若さでこの世を去ってしまいました。写真掲載しましたが、雪柯邸跡は伊勢市一志町にあります。伊勢神宮、外宮の駐車場から徒歩五分のところにあります。神宮参拝の傍、お立寄り下さい。

岐 阜 支 部

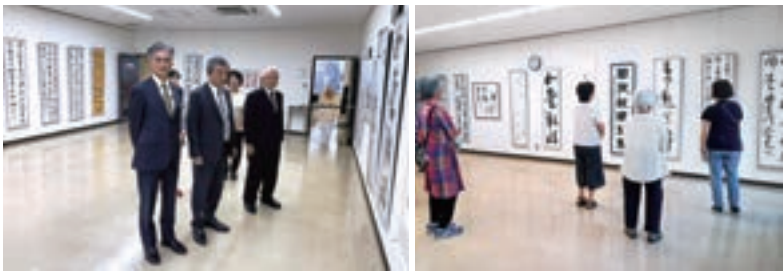
●支部事務局会議

- 第一回 三月十日(日)
 - 第二回 七月二十三日(火)
 - 第三回 八月二十日(火)
- 各会議において支部集会、第二十九回支部展について、研修旅行について、支部報について協議を重ねた。

●第二十九回岐阜支部展

会 期 九月二十日(金)～二十二日(日)
会 場 岐阜市民会館二階ギャラリー
出品者 二十六名

本部より伊藤仙游理事、岡野楠亭副理事長、加藤裕副理事長、松下英風副理事長、横井宏軒副理事長の玉作を賛助出品いただき、会員の力作合わせ二一六点を展示。暑い日々にもかかわらず来場の方々には大層熱心に鑑賞していただきました。



岐阜支部展

●支部集会・懇談会

日 時 九月二十二日(日) 午後四時半
会 場 ホテルグランヴェール岐山
参加者 三十五名
本部より来賓として伊藤仙游理事長、松下英風副理事長をお迎えし、伊藤小游理事の開会の挨拶、支部長挨拶、松下英風副理事長に來賓として祝辞をいただきました。

続いて報告事項として令和五年度事業収支決算、監査報告、令和六年度事業計画、収支予算についての報告があり、鈴木蘭峰支部次長の閉会の言葉で終了しました。

引き続き宴会場にて来賓の伊藤仙游理事長よりご挨拶をいただき、吉澤劉石地区委員の乾杯の発声の後、和氣諒々と楽しい時を過ごし会を閉じました。



支 部 集 会